

		音 楽 研 究 会		部 会 記 録	
日時	平成29年 10月 4日 (水) 15:30~16:45				
部会名	研修部 授業実践部会			主任	今泉 美保
参加数	26名	司会	須田 直之	記録	森野 淳
研 修 内 容	<p>「音楽づくり研修」 講師：横浜市立高田東小学校 校長 館 雅之先生 提案：横浜市立大鳥小学校 須田 直之先生 場所：横浜市立桜岡小学校 音楽室</p>				
	<p>4年 音楽の仕組みを生かし 音楽をつくろう 夏の教育課程研究会で提案した内容 背景は、カリキュラムマネジメントの観点から（音色と強弱などに触れようと思ったので） 山の魔王の宮殿→音のカーニバル→音楽づくりの順におこなった グループ活動のグループは、音のカーニバルのグループをそのままおこなった。 今回は出会いの場とグループで試行錯誤しながら音楽を作る場面を模擬授業したい。</p> <p>模擬授業スタート 今回は打楽器を使って音楽づくりをします 「去年やった魔法の音楽、覚えているかな??」 今回は図形が決まっている。「ア」「イ」「ウ」「エ」それぞれにリズムがある。 「実際に音を出してみようかなと思うけど、どんな音が出そうか。想像してみよう。 まず声でいこうかな、まずはどんなことでもいいから想像してみましょう。」 それぞれの図形を見ながら想像する時間 →発問</p> <p>「ア」だったらこんな声が出そうだな、など。「今どんなところに気をつけましたか？」 →丸の大きさが違うので、音も違うのかなと思った。 ウとエは繋げて見ると大きくなったり小さくなったりする感じ 気をつけたところは声の強さを強くしたり弱くしたりした 声で導入をしてから、今度は打楽器を使って鳴らしてみる→音探しをする</p> <p>音探しをする前に、「もう早速アイデアある子いるかな??」 見本としてやってもらう→ 「ア」で一つ見本 何人か見本をやってもらってから取り組む →個人で音探し。(3分くらい)</p> <p>「こんな音探せたよという人教えてください」(どれでもよい) 発問「なんでこうやろうとしたの?」「どういう工夫があるのかな」「鳴らし方を変えたら 何を表現しようとしたの?」→強弱 「他にはどうかな?」 ウとエを合わせてみました。鈴でクレッシェンドとデクレッシェンド 「どんな工夫をしましたか」「いいなと思った人??」 「今までは金属の楽器だけど、木の楽器はどうかな??」</p>				

クラベスの打つ場所などを変えて演奏するパターン（クレッシェンド）
というように、音探しをしたのが第1時

第2時にはそれぞれの形を組み合わせてつくる活動（グループ活動）

それぞれグループを作って活動する

それぞれのグループにアイテムを配る

はじめに鳴らすものを決める（アだったら最初にはる）

ルールとしては一つの○が四分音符として捉える。

ここからグループ活動

それぞれのグループで話し合いをしながら音楽をつくっていく活動（4グループ）

使う楽器は木セクション（クラベス、ウッドブロック、など）

鉄セクション（鈴、トライアングル、カバサなど）

旋律楽器は使わない

拍の流れに乗ってつくれるようにアドバイスをする 音の重なりはどんな感じになってもいい

中間発表

本来であれば iPad で写真を撮ってテレビに映し出す

どんな工夫をしたか、各グループ話し合いながら行う。

各グループの中間発表

音楽的な工夫が言えるようにしたい「問いと答えが入るように」「音がだんだん重なっていくように」などの発言を出せるといい。

体で表現するもの、という観点から表現は楽器の演奏だけでなく体で表現することがいい。

館先生の御指導

最初の活動で、声で図形楽譜を表現することがとても重要である

「あ」の活動（あ、というだけでもいろいろな「あ」がある。音色の工夫につながってくる
手拍子回しは常時活動としてやってもよい

なんでもいいから音楽作ってみてというのは無理。

ただし条件を与えすぎるのもダメなので、限定すること（創造性が見える）

今回で言えば図形に限定、拍を限定、楽器を限定

声でやった時に言葉で価値づけているのがよい。音楽的なものを価値づけてあげるとよい。

それぞれの○は「あ」でなくてもいい。図形でセリフが違ってもいい（録音聞いて）

最後に教科書を使った音楽づくりの資料を御指導

Loopimal（ルーピマル）のご紹介